

[成果速報]

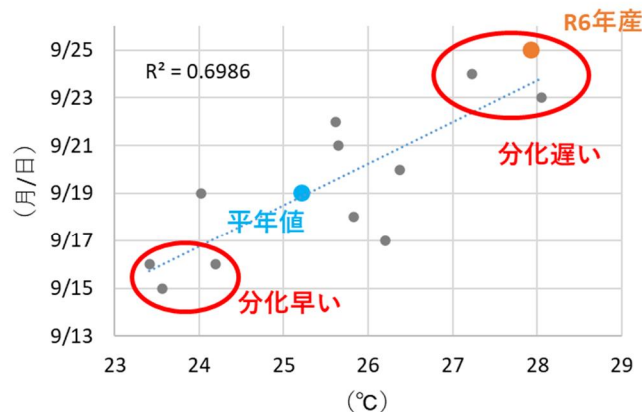
「とちおとめ」の花芽分化と高温の関係 —「とちあいか」花芽分化予測モデルの作成に向けて—

【背景】

R6年産「とちあいか」における定植日は、猛暑の影響を受け夜冷作型は9月7日、ポット作型は9月20日となり、両作型とも平年より7日遅れました。定植期の猛暑により花芽分化が遅れることが懸念されます。そこで、これまでに蓄積された「とちおとめ」作況調査結果を用いて解析を行い、花芽分化と夏季温度の関係を明らかにしました。

【結果】

解析の結果、平均気温が24℃を下回ると花芽分化が早まり、27℃を上回ると花芽分化が遅れる傾向が見られ、高温と「とちおとめ」の花芽分化には相関関係があることが明らかとなりました。(図1)。



- 注1 H25年～R6年産の「とちおとめ」ポット作型の定植日データ (いちご研究所)
- 注2 気温、日射量：宇都宮気象台の8月中旬～9月上旬のデータを引用
- 注3 平年値の定植日(9/19)より3日以上早いことを「分化早い」、3日以上遅いことを「分化遅い」としている

図1 平均気温と「とちおとめ」定植日

【活用方法】

8月下旬の平均気温をもとに「とちおとめ」ポット作型の花芽分化予測モデルを作成しました(図2)。このモデルは、の定植日を予測するためのものですが、例年の品種間差から逆算することで、「とちあいか」の定植日も想定できると考えています。今後はさらにデータを蓄積して、「とちあいか」花芽分化予測モデルを作成していきます。

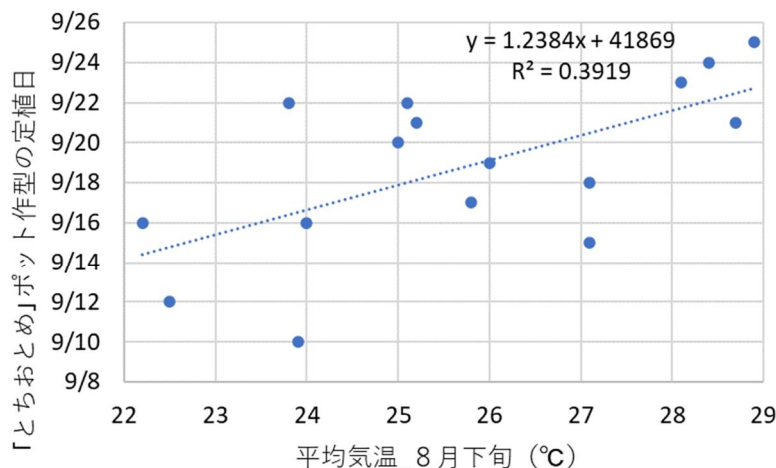


図2 花芽分化予測モデル (「とちおとめ」ポット作型)

- 注1 H21年～R6年産の「とちおとめ」ポット作型の定植日データ (いちご研究所)
- 注2 気温：宇都宮気象台の8月下旬のデータを引用

(いちご研究所 船田 実希)